

## 1 結果のポイント

- ・全体の平均正答率は国東市 72.6%で県 69.8%に対して 2.8 ポイント上回っている。
- ・「知識」「活用」ともに偏差値は50を上回っている。
- ・「領域」「観点」別では、全ての項目で目標値を上回っている。  
特に「領域」別では、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「観点」別では、「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」が偏差値50をこえている。

## 2 課題が見られた問題と指導の改善事項

### (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) (1) ③、(2) ③

#### ①出題のねらい

- ・(1) 第1学年までに学習した漢字を正しく読んでいる。 【知識・技能】
- ・(2) 小学校で学習した漢字を正しく書いている。 【知識・技能】

#### ②問題内容

- ・(1) 漢字を読む
- ・(2) 漢字を書く

#### ③解答状況

- ・(1) ③「頼(む)」【市 98.4% 県 99.1% 目標値 90.0%】
- ・(2) ③「敬(う)」【市 56.8% 県 63.6% 目標値 55.0%】

#### ④指導の改善事項

漢字の読みについては、小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字に加え、中学校修了までに学年別漢字配当表以外の常用漢字の大体を読む必要がある。漢字一字一字の音訓を理解し、語句として、話や文章の中において文脈に即して意味や用法を理解しながら読むことが求められる。そのため、教科書を読むことや読書を通して、漢字の読みの習熟と応用を図るように指導することが引き続き大切である。このことが書くことにもつながっていくと考えられる。

指導に当たっては、平成21年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A<sup>8</sup>に係る授業アイデア例「定着しにくい漢字や間違いやすい漢字について、意識をもって読み書きできるようにする。」「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」国語-10「これで納得！私たちが身に付けるべき常用漢字」、平成25年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B<sup>3</sup>三「漢字の特徴を捉えて、自分の考えを具体的に書くことができるかどうかをみる。」も参考になる。

(参照)

「平成21年度【中学校】報告書」P. 195

「4年間のまとめ【中学校編】」P. 111

「言語活動事例集【中学校版】」P. 37～P. 38

### (2) 話すこと・聞くこと (1) (1)

#### ①出題のねらい

必要に応じて記録しながら話の内容を捉えている。【思考・判断・表現】

#### ②問題内容

話し合いの内容を聞き取る。

#### ③解答状況

【市：91.3% 県：92.8% 目標値：85.0%】

#### ④指導の改善事項

学習指導要領では、「話すこと・聞くこと」の指導事項のエ（聞くこと）について、話を聞く際の視点としては、第1学年では、必要に応じて記録したり質問したりして、第2学年では、論理の展開などに注意して、第3学年では、話の展開を予測しながら、聞くことを示している。

必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉えるとは、何のためにどのような状況で話を聞いているのかを意識したうえで、話の内容を正確に理解するために、必要に応じて重要な情報を書き留めたりわからないことや知りたいこと、確かめたいことを話し手に尋ねたりすることである。

指導にあたっては、第2学年の指導事項「A話すこと・聞くこと」の「エ 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること」を身に付けさせる過程において、第1学年の指導事項についての活用場面を設け、定着させることが考えられる。たとえば、重要であると判断した情報をキーワードとして書き留めたり、気づいたことを書き加えたりするなど、効果的な記録の取り方ができるようにすること、書き留めたものを読み返して、話の内容を振り返ることも重要である。その際、第2学年〔知識及び技能〕（3）我が国の言語文化に関する事項の「ウ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと」との関連を図り、文字の書き方を工夫するように指導することが考えられる。また、指導の効果を高めるために、録音や録画のための機器を積極的に活用することが必要である。

### 3 指導の改善のポイント

#### （1）これからの国語科の授業づくりの基本的な考え方

①主体的・対話的で深い学びを促すために、以下の8点について留意し、単元構想と授業実践を行うことが大切である。

ア 生徒が興味をもつ教材・題材	イ 魅力的な課題の提示、生徒による課題の発見
ウ 学習の見通し、本時の目標（めあて）の明示	エ 課題解決的な学習、既習事項を活用する学習
オ 自分の考えを発表・交流する機会	カ 「できた」「わかった」の実感
キ 「できたこと」「わかったこと」の振り返り	ク 日常生活、社会生活への広がり

②国語科は、生徒に付けたい力を付けるために、言語活動を単元全体で取り扱い、言語活動を通して指導事項を指導する教科である。国語科で育成した言語能力は、他教科の基幹になることは言うまでもなく、今後とも更なる言語活動の充実を図り、授業改善を推進していく方針は不変である。

#### （2）国語科授業改善の方向性

学習指導要領を鑑み、これまでの国語科の授業を振り返った上で国語科の授業改善の方向性を以下に示す。（具体的留意点）

##### ①適切な言語活動の設定とその充実

ア) つけたい力をつけるのにふさわしい言語活動であるか

- ・単元を構想する際は、つけたい力（指導事項）と言語活動のミスマッチはないか、よく吟味する必要がある。そして、主たる学習活動の設定時間数は十分であるかを併せて考えておきたい。
- ・言語活動を設定した後、課題解決のための手法は適切か、生徒の学習状況や定着状況を把握しながら、弾力的に修正していくことも大切である。単元を通して生徒が課題を解決していく際に、生徒自身が、単元のゴールに向けて、学習の見通しを立てたり振り返ったりして、学習計画を見直すことや、生徒個人の選択や判断が生かされる学習場面を重視することが重要となる。

イ) 多様な図書資料等が有効に活用されているか

- ・目的に応じた言語の能力を身に付けさせるためには、国語の教科書だけでなく多様な図書資料等（書籍、新聞、その他のメディアからの情報）を用いることが必要である。多様な図書資料等を活用する中で、例えば必要な情報を素早く見付ける読みや、必要な部分を詳細に分析する読みの指導が可能となる。また、自分の考えを深めたり広げたりするためにも学校図書館等を利活用し、多様な情報を関連づけて読むことの指導にあたる必要がある。

- ・そのためにも、「不読者」を少なくする取組が必要である。1ヵ月の間に本を1冊も読まない生徒の割合は県平均を下回っているが、5冊以上本を読む生徒の割合が県平均より低くなっている。まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な生徒の学力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。また、読書によって豊かな語彙形成につながったり、自分を高めたりできるという視点からも、引き続き読書指導の在り方を見直す必要がある。

質問紙：「あなたはこの1ヶ月の間に本を何冊くらい読みましたか。」(単位は%)

冊数	0	1~2	3~4	5~6	7~8	9~10	11~20	21~30	31冊以上	その他
大分県	15.5	37.1	19.0	9.2	4.5	5.5	4.4	1.9	2.6	0.4
国東市	14.8	37.2	24.6	8.2	3.3	4.9	4.9	0.5	1.1	0.5

- ウ) 既習事項 (または知識・技能) を活用する言語活動であるか
- エ) ウ) のために知識・技能の確実な定着を図っているか
- オ) 生徒の興味関心を喚起する言語活動であるか
  - ・学習者の視点を大事にした教材研究を行い、学習者が、どのような関心や疑問を持ったり、気付きや感動を得たりするのか等、学習者の視点からも教材の分析をすることが重要となる。
- カ) 発表や交流活動を設定した言語活動であるか
  - ・本当に話し合いが必要なのか、必要であれば、どのような形式の話し合いが適切であるのかを吟味した上で行うことが大切である。また、ペア学習やグループ学習のみに終わらないために、生徒自身に気付かせることと教師が教えるべきことの整理をしておく必要がある。
  - ・話し合う手段をとる際には、「何のために」「何の力を高めるために」行うのかということ、生徒自身にも自覚させるように心がけたい。

## ②生徒の主体的な学びを促す「めあて」等の設定、指導に生かせる「より具体的な評価規準」の設定

- ア) 適切な「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定があるか
  - ・以下の資料を参考にして、設定すること。  
「児童生徒の主体的な学びを促す『めあて』『課題』『まとめ』『振り返り』の設定例」  
「主体的・対話的で深い学びを実現するための単元(題材、主題)計画 例」 (県教委 HP)
- イ) 指導事項・指導領域・評価の焦点化が見られるか
- ウ) 単元・指導過程・本時の評価規準に整合性があるか
  - ・単元の評価規準→指導過程の評価規準→本時の評価規準という道筋で、整合性をもったより具体的な評価規準(概ね満足できる状況)を設定することが求められる。見取りができていく評価規準は、指導・支援が曖昧になってしまうと考えられる。
- エ) 「B 概ね満足できる」状況が具体的に想定され、それを判断する場面や方法は具体的で適切であるか
  - ・評価の場面は1時間で1、2箇所が妥当である。
- オ) 「C 努力を要する状況」の生徒への指導や支援は行われているか、またその方法(手段)は有効であるか
  - ・具体的な評価規準から本時のめあてを設定すること、また、評価規準に基づき「C 努力を要する状況」の生徒を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な手立てを講じる必要がある。

## ③参考資料を活用した授業実践

- 全国学力・学習状況調査の調査問題
- 公立高等学校入学者選抜学力調査
- 「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」 <http://www.nier.go.jp/jugyourei/>

- 「学習評価の在り方ハンドブック」(小・中学校編)
  - 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(中学校 国語)
    - <国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>>
- 「早わかり！単元計画の作成の手順」(県教委作成)
  - <<https://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/hayawakari-tejunn.html>>
- 中学校国語科指導資料(県教委作成)
- 「個に応じた指導の手引き 中学校 国語科編」(県教委作成)

### (3) その他、国語科授業で取り組むべきこと

#### ①学習用語の確実な理解

- ・必要な言葉を使用し、言葉で思考を深めることが必要である。そのために、中学校で使用する教科書に掲載されている学習用語は、その学年で確実に理解させることが大切である。既習の用語は授業で使わせ、指導者が曖昧な言葉を使わないようにしなければならない。

#### ②記述する活動の充実

- ・記述は、「書くこと」の指導だけでなく、3領域の力を向上させるのに有効である。

例(話す・聞く) インタビュー等の取材メモ、スピーチ原稿等  
 (書く) 鑑賞文、図表などを用いた説明・記録、案内、意見文、批評文  
 (読む) 文章を読んで解釈し、自分の考え(感想や意見、評価、批評等)を明確に書くこと。  
 目的に応じて本文を引用したり要約したりすること。

- ・また、条件に即応して記述しなければならない場面を設定することも有効である。時間・字数・文章の形態や種類・文体・テーマ・対象・使用語彙・要約・引用・例示・技法・構成等、条件を踏まえる必然性のある課題を設定していきたい。

### (4) 学校全体で取り組むべきこと

#### ①漢字や語句、文法、表現技法等の習得

- ・漢字や語句、文法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。特に漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。

#### ②全校一斉読書や各教科における学校図書館の活用

- ・様々な力を下支えするものとして、活字に親しむことが必要である。その際、文学的文章だけでなく科学的な読み物等にも手を伸ばすように指導する必要がある。
- ・学年が上がるに従って、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を利活用することも求められる。そのために、国語科だけでなく各教科や領域において、図書館活用の推進をしなければならない。